

説明文書

第1類医薬品

使用前には必ず製品に同封されている説明書を読んで下さい

1	名称	ロキソプロフェン錠「GX」									
2	成分・分量	[1錠中] ロキソプロフェンナトリウム水和物 68.1mg (無水物として60mg)									
3	用法・用量	<p>症状があらわれた時、次の量を、なるべく空腹時をさけて水又はぬるま湯で服用して下さい。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年齢</th> <th>1回量</th> <th>1日服用回数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>成人(15才以上)</td> <td>1錠</td> <td>2回まで ただし、再度症状があらわれた場合には3回目を服用できます。 (服用間隔は4時間以上おいて下さい)</td> </tr> <tr> <td>15才未満</td> <td colspan="2">服用しないで下さい</td> </tr> </tbody> </table>	年齢	1回量	1日服用回数	成人(15才以上)	1錠	2回まで ただし、再度症状があらわれた場合には3回目を服用できます。 (服用間隔は4時間以上おいて下さい)	15才未満	服用しないで下さい	
年齢	1回量	1日服用回数									
成人(15才以上)	1錠	2回まで ただし、再度症状があらわれた場合には3回目を服用できます。 (服用間隔は4時間以上おいて下さい)									
15才未満	服用しないで下さい										
4	効能・効果	<p>○ 頭痛・歯痛・抜歯後の疼痛・咽喉痛・耳痛・関節痛・神経痛・腰痛・筋肉痛・肩こり痛・打撲痛・骨折痛・ねんざ痛・月経痛(生理痛)・外傷痛の鎮痛</p> <p>○ 悪寒・発熱時の解熱</p>									
5	保健衛生上の危害を防止するために必要な事項	<p>1. 次の人は服用しないで下さい</p> <p>(1) 本剤又は本剤に含まれる成分によりアレルギー症状を起こしたことがある人。</p> <p>(2) 本剤又は他の解熱鎮痛薬、かぜ薬を服用してぜんそくを起こしたことがある人。</p> <p>(3) 15才未満の小児。</p> <p>(4) 医療機関で次の治療を受けている人。胃・十二指腸潰瘍、肝臓病、腎臓病、心臓病</p> <p>(5) 医師から赤血球数が少ない(貧血)、血小板数が少ない(血が止まりにくい、血が出やすい)、白血球数が少ない等の血液異常(血液の病気)を指摘されている人。</p> <p>(6) <u>出産予定日12週以内の妊婦。</u></p> <p>2. 本剤を服用している間は、次のいずれの医薬品も服用しないで下さい</p> <p>他の解熱鎮痛薬、かぜ薬、鎮静薬</p> <p>3. 服用前後は飲酒しないで下さい</p> <p>4. <u>長期連続して服用しないで下さい</u>(3~5日間服用しても痛み等の症状が繰り返される場合には、服用を中止し、医師の診療を受けて下さい)</p> <p>5. 次の人は服用前に医師、歯科医師又は薬剤師にご相談下さい</p> <p>(1) 医師又は歯科医師の治療を受けている人。</p> <p>(2) 妊婦又は妊娠していると思われる人。</p> <p>(3) 授乳中の人。</p> <p>(4) 高齢者。</p> <p>(5) 薬などによりアレルギー症状を起こしたことがある人。</p> <p>(6) 次の診断を受けた人。気管支ぜんそく、潰瘍性大腸炎、クローン病、全身性エリテマトーデス、混合性結合組織病。</p> <p>(7) 次の病気にかかったことがある人。胃・十二指腸潰瘍、肝臓病、腎臓病、血液の病気。</p>									
6	薬剤師が必要と判断する事項										

〔注意事項〕

- 本紙の内容は、お客様が医薬品を購入・選択時に、役立たせるために必要な情報です。
- 法令により、要指導医薬品は必ず、第1類医薬品は薬剤師が必要と判断した場合を除いて、情報提供を行います。
- 使用后、体調に変化等があった場合(副作用など)には使用を中止し、すぐに購入された店舗の薬剤師にご相談下さい。

ロキソプロフェン錠「GX」

日本薬局方 ロキソプロフェンナトリウム錠

【この薬は？】

販売名	ロキソプロフェン錠「GX」
成分	ロキソプロフェンナトリウム水和物
分量	一錠中 68.1mg(無水物として60mg)
医薬品分類	第1類医薬品

【この薬の効果は？】

- ・この薬は、非ステロイド性消炎・鎮痛剤(NSAIDs)と呼ばれるグループに属する解熱鎮痛薬です。
- ・この薬は、痛み・炎症・発熱の原因物質「プロスタグランジン」の生成を抑え、痛みをやわらげ、熱を下げます。
- ・この薬は、次の目的で服用いただけます。
 - 頭痛・歯痛・抜歯後の疼痛・咽喉痛・耳痛・関節痛・神経痛・腰痛・筋肉痛・肩こり痛・打撲痛・骨折痛・ねんざ痛・月経痛（生理痛）・外傷痛の鎮痛
 - 悪寒・発熱時の解熱

【この薬を服用する前に、確認すべきことは？①】

以下の項目をチェックして、本品が服用できることをご確認下さい。

副作用（薬による有害な反応）として、胃・十二指腸潰瘍、重症喘息発作の誘発、発疹、むくみ等を起こす場合のあることが知られています。

詳しくは、【この薬の服用中に気を付けなければならないことは？】をご参照下さい。

次の人はこの薬を服用することはできません。

- 本剤又は本剤に含まれる成分でアレルギー症状等の過敏な反応を起こしたことがある人
- 本剤又は他の解熱鎮痛薬、かぜ薬を服用してぜんそくを起こしたことがある人
- 15才未満の小児
- 医療機関で次の治療を受けている人
 - 胃・十二指腸潰瘍、肝臓病、腎臓病、心臓病
- 医師から以下のような血液異常（血液の病気）を指摘されている人
 - ・赤血球数が少ない（貧血）
 - ・血小板数が少ない（血が止まりにくい、血が出やすい）
 - ・白血球数が少ない
- 出産予定日12週以内の妊婦

【この薬を服用する前に、確認すべきことは？②】

次の人はこの薬を服用する際に注意が必要です。

購入される前に医師、歯科医師又は薬剤師にご相談下さい。

- 医師又は歯科医師の治療を受けている人
- 妊婦（出産予定日12週以内の妊婦を除く）又は妊娠していると思われる人
- 授乳中の人
- 高齢者
- 薬などによりアレルギー症状を起こしたことがある人
- 次の診断を受けた人
 - 気管支ぜんそく、潰瘍性大腸炎、クローン病、全身性エリテマトーデス、混合性結合組織病
- 次の病気にかかったことがある人
 - 胃・十二指腸潰瘍、肝臓病、腎臓病、血液の病気

【この薬を実際服用する前に、確認すべきことは？】

- 本剤は痛みや熱等の原因になっている病気そのものを治療するものではなく、発現している症状を抑える薬です。したがって、症状がある場合だけ服用して下さい。
- 1～2回服用しても症状が一向に良くならない場合は、他の疾患の可能性がありますので服用を中止し、製品に同封されている説明書を持って医師、歯科医師又は薬剤師に相談して下さい。
- 長期連続して服用しないで下さい。
3～5日間服用しても痛み等の症状が繰り返される場合には、服用を中止し、医師の診療を受けて下さい。
- 本剤を服用している間は、次のいずれの医薬品も服用しないで下さい。
他の解熱鎮痛薬、かぜ薬、鎮静薬
- 服用前後は飲酒しないで下さい。

【この薬の使い方は？】

- 服用量及び回数
成人（15才以上）は、症状があらわれた時、1回1錠をなるべく空腹時をさけて、水又はぬるま湯で服用します。通常1日2回までとして下さい。再度痛み等の症状があらわれた場合には3回目を服用できます。（服用間隔は4時間以上おいて下さい）15才未満の小児は服用しないでください。
※服用に際しては、製品に同封されている説明書を必ずお読みの上、用法・用量を厳守して、正しくお使い下さい。
- どのように飲むのか？
コップ一杯程度の水又はぬるま湯で飲んで下さい。
- 多く服用したとき（過量服用時）の対応
誤って多く服用した場合は、医師又は薬剤師に相談して下さい。

【この薬の服用中に気をつけなければならないことは？】

- この薬のような解熱鎮痛薬を服用した後、過度の体温低下、虚脱（力が出ない）、四肢冷却（手足が冷たい）等の症状があらわれることがあります。このような症状があらわれた場合には、直ちに服用を中止し、製品に同封されている説明書を持って医師又は薬剤師にご相談下さい。
- この薬を服用した後、消化性潰瘍（胃もたれ、胸やけ、背中痛み）、むくみがあらわれた場合には、直ちに服用を中止し、製品に同封されている説明書を持って医師又は薬剤師にご相談下さい。
また、まれに消化管出血（血を吐く、吐き気・嘔吐、腹痛、黒いタール状の便、血便等があらわれる）、消化管穿孔（消化管に穴があくこと。吐き気・嘔吐、激しい腹痛等があらわれる）、小腸・大腸の狭窄・閉塞（吐き気・嘔吐、腹痛、腹部膨満等があらわれる）の重篤な症状が起こることがあります。その場合は直ちに医師の診療を受けて下さい。

【副作用は？】

- (1) 服用後、以下の症状があらわれた場合は副作用の可能性がありますが、このような場合は、直ちに服用を中止し、製品に同封されている説明書を持って医師又は薬剤師にご相談下さい。

関係部位	症状
皮膚	発疹・発赤、かゆみ
消化器	腹痛、胃部不快感、食欲不振、吐き気・嘔吐、腹部膨満、胸やけ、口内炎、消化不良
循環器	血圧上昇、動悸
精神神経系	眠気、しびれ、めまい、頭痛
その他	胸痛、倦怠感、顔面のほてり、発熱、貧血、血尿

- (2) まれに起こる特にご注意いただきたい副作用と、それぞれの主な自覚症状を記載しました。副作用であれば、それぞれの副作用ごとに記載した主な自覚症状のうち、いくつかの症状が同じ時期にあらわれることが一般的です。その場合は、直ちに服用を中止し、医師の診療を受けて下さい。

症状の名称	症状
ショック（アナフィラキシー）	服用後すぐに、皮膚のかゆみ、じんましん、声のかすれ、くしゃみ、のどのかゆみ、息苦しさ、動悸、意識の混濁等があらわれる。
血液障害	のどの痛み、発熱、全身のだるさ、顔やまぶたのうらが白っぽくなる、出血しやすくなる（歯茎の出血、鼻血等）、青あざができる（押しても色が消えない）等があらわれる。
皮膚粘膜眼症候群（スティーブンス・ジョンソン症候群）、中毒性表皮壊死融解症、多形紅斑、急性汎発性発疹性膿疱症	高熱、目の充血、目やに、唇のただれ、のどの痛み、皮膚の広範囲の発疹・発赤、水疱が皮膚の赤い部分にあらわれる、赤くなった皮膚上に小さなブツブツ（小膿疱）が出る、全身のだるい、食欲がない等が持続したり、急激に悪化する。
腎障害	発熱、発疹、尿量の減少、全身のむくみ、全身のだるさ、関節痛（節々が痛む）、下痢等があらわれる。
うっ血性心不全	全身のだるさ、動悸、息切れ、胸部の不快感、胸が痛む、めまい、失神等があらわれる。
※心筋梗塞	しめ付けられるような胸の痛み、息苦しい、冷や汗が出る。
※脳血管障害	意識の低下・消失、片側の手足が動かしくくなる、頭痛、嘔吐、めまい、しゃべりにくくなる、言葉が出にくくなる等が急にあらわれる。
間質性肺炎	階段を上ったり、少し無理をしたりすると息切れがする・息苦しくなる、空せき、発熱等がみられ、これらが急にあらわれたり、持続したりする。
肝機能障害	発熱、かゆみ、発疹、黄疸（皮膚や白目が黄色くなる）、褐色尿、全身のだるさ、食欲不振等があらわれる。
横紋筋融解症	手足・肩・腰等の筋肉が痛む、手足がしびれる、力が入らない、こわばる、全身のだるい、赤褐色尿等があらわれる。
無菌性髄膜炎	首すじのつっぱりを伴った激しい頭痛、発熱、吐き気・嘔吐等があらわれる。（このような症状は、特に全身性エリテマトーデス又は混合性結合組織病の治療を受けている人で多く報告されている）
ぜんそく	息をするときゼーゼー、ヒューヒューと鳴る、息苦しい等があらわれる。

前記【この薬の服用中に気をつけなければならないことは？】にお示した自覚症状を、症状があらわれる部位別に並び替えると次のとおりです。これらの症状に気づいたら、前記（2）特にご注意いただきたい副作用の表などをご覧下さい。

部位	自覚症状
全身	体温が平熱より下がる、力が出ない、全身のむくみ、からだのむくみ、発熱、全身のだるさ、高熱、眠気、筋肉のこわばり、冷や汗が出る
頭部	めまい、首筋の突っ張りを伴う激しい頭痛、頭痛、気を失う、意識の低下・消失
顔面	顔色が青白い、鼻血、ほてり
眼	まぶたのうらが白っぽい、白目が黄色くなる、目の充血、目やに

耳	耳鳴り
口や喉	血を吐く、のどの痛み、歯茎の出血、吐き気、嘔吐、空せき（痰を伴わないせき）、口内炎、唇や口内のただれ、声のかすれ、くしゃみ、のどのかゆみ、しゃべりにくくなる、言葉が出にくくなる
胸部	胸やけ、息苦しい、動悸（どうき）、息切れ、胸部の不快感、しめつけられるような胸の痛み、胸の痛み、呼吸がしにくい、ぜんそく（息をするときゼーゼー、ヒューヒューと鳴る）
腹部	胃もたれ、腹痛、胃の不快感、食欲不振、膨れあがる感じ、消化不良、激しい腹痛
背中	背中での痛み、肩・腰等の筋肉痛
手・足	手足の冷え、しびれ、関節痛（節々が痛む）、筋肉痛、片側の手足が動かしにくくなる
皮膚	じんましん、青あざが出来る、発疹、発赤、広範囲の発疹・発赤、水疱が皮膚の赤い部分にあらわれる、赤くなった皮膚上に小さなブツブツ（小膿疱）が出る、皮膚が黄色くなる、かゆみ
便	黒いタール状の便、血が混じった便、下痢
尿	尿量が減る、血尿、褐色尿、赤褐色尿
その他	血圧が上がる、出血しやすい

- (3) 服用後、次のような症状があらわれることがありますので、このような症状の持続又は増強が見られた場合には服用を中止して、製品に同封されている説明書を持って医師又は薬剤師に相談して下さい。

口のかわき、便秘、下痢

【この薬にふくまれているものは？】

有効成分	1錠中 ロキソプロフェンナトリウム水和物 68.1mg (無水物として60mg)
添加物	ケイ酸アルミン酸Mg、結晶セルロース、クロスカルメロースNa、硬化油、ステアリン酸Mg、三二酸化鉄、バレイシヨデンブ

錠剤により添加物による赤い斑点がみられることがあります。

【その他】

- この薬の保管方法は？
 - ・直射日光の当たらない湿気の少ない涼しい所に保管して下さい。
 - ・小児の手の届かない所に保管して下さい。
 - ・他の容器に入れ替えないで下さい。（誤用の原因になったり品質が変わります）
- 外箱に記載の使用期限を過ぎた製品は服用しないで下さい。

【この薬についての問い合わせ先は？】

本剤のご使用により、変わった症状があらわれるなど、何かお気づきの点がございましたら、お買い求めのお店又は下記までご連絡頂きますようお願い申し上げます。

奥田製薬株式会社 お客様相談窓口
電話：06(6351)2100（代表）
受付時間：9:00～17:00（土、日、祝日を除く）